

Title	フランスロマン主義時代におけるイタリアの表象をめぐる研究
Sub Title	Study on the representation of Italy in the French romantic period
Author	上杉, 誠(Uesugi, Makoto)
Publisher	慶應義塾大学
Publication year	2023
Jtitle	学事振興資金研究成果実績報告書 (2022.)
JaLC DOI	
Abstract	フランスロマン主義時代におけるイタリアの表象は、ヨーロッパ各国における古典古代の受容と密接に関連するため、フランスという地理的領域にも、ロマン主義時代という時代区分にも、さらには文学、芸術といったジャンルの区分にも、限定されない揺らぎをもっている。そのような背景を踏まえた上で、フランスロマン主義時代は、多くの作家たちが実際にイタリアの地を踏みその体験を作品に反映させた点で注目に値する。なかでも作家スタンダールは、イタリア趣味の持ち主としてよく知られている通り、イタリアに長期滞在しイタリアに関する実際の見聞を重ねると同時に、先行する様々な著作を踏まえながら、自身もイタリアに関する様々な著作を残している。この作家におけるイタリアの表象において、同時代のイタリアだけではなく、過去のイタリア、それも16世紀という特定の時代のイタリアが重きをなしていることはなぜなのか。この点について、イタリアの「中世」を理想化し、16世紀以降のイタリアを「自由」を喪失したものとして描いた「自由主義的」歴史家のシスモンディの影響が読み取られ得る。短編集『イタリア年代記』に分類されるスタンダールの『パリアーノ公爵夫人』は、16世紀イタリアにおける殺人事件とそれにまつわる判決を素材としており、殺人と判決、さらに司法判断の変遷を通して、ローマ教皇、貴族、そしてスペインの間での権力関係の変化を読み取ることができ、16世紀は、19世紀に至るまでのイタリアの歴史を踏まえた時代の転換点として描かれていることが分かる。この作品に関する論文は、国際的な研究雑誌、H.B. Revue internationale des etudes stendhaliennesの第26号（2023年発行予定）に掲載予定である。 Stendhal's "Le Duchesse de Palliano," one of the short stories in the "Chroniques italienne," is based on a murder case and the judgment in 16th century Italy. Through the murder, judicial decisions, and changes in the judgment, we can read the changing power relations among the Pope, nobility in Italy and Spain. The 16th century is depicted as a turning point in the history of Italy up to the 19th century. An article on this work is forthcoming in H.B. Revue internationale des etudes stendhaliennes, an international research journal, to be published in 2023.
Notes	
Genre	Research Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=2022000010-20220161

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

研究代表者	所属	文学部	職名	助教	補助額	300 (A) 千円
	氏名	上杉 誠	氏名 (英語)	Makoto UESUGI		
研究課題 (日本語)						
フランスロマン主義時代におけるイタリアの表象をめぐる研究						
研究課題 (英訳)						
Study on the representation of Italy in the french romantic period						
1. 研究成果実績の概要						
フランスロマン主義時代におけるイタリアの表象は、ヨーロッパ各国における古典古代の受容と密接に関連するため、フランスという地理的領域にも、ロマン主義時代という時代区分にも、さらには文学、芸術といったジャンルの区分にも、限定されない拡がりをもっている。そのような背景を踏まえた上で、フランスロマン主義時代は、多くの作家たちが実際にイタリアの地を踏みその体験を作品に反映させた点で注目に値する。なかでも作家スタンダールは、イタリア趣味の持ち主としてよく知られている通り、イタリアに長期滞在しイタリアに関する実際の見聞を重ねると同時に、先行する様々な著作を踏まえながら、自身もイタリアに関する様々な著作を残している。この作家におけるイタリアの表象において、同時代のイタリアだけではなく、過去のイタリア、それも 16 世紀という特定の時代のイタリアが重きをなしていることはなぜなのか。この点について、イタリアの「中世」を理想化し、16 世紀以降のイタリアを「自由」を喪失したものとして描いた「自由主義的」歴史家のシスモンディの影響が読み取られ得る。短編集『イタリア年代記』に分類されるスタンダールの『パリアーノ公爵夫人』は、16 世紀イタリアにおける殺人事件とそれにまつわる判決を素材としており、殺人と判決、さらに司法判断の変遷を通して、ローマ教皇、貴族、そしてスペインの間での権力関係の変化を読み取ることができ、16 世紀は、19 世紀に至るまでのイタリアの歴史を踏まえた時代の転換点として描かれていることが分かる。この作品に関する論文は、国際的な研究雑誌、H.B. Revue internationale des etudes stendhaliennes の第 26 号 (2023 年発行予定) に掲載予定である。						
2. 研究成果実績の概要 (英訳)						
Stendhal's "Le Duchesse de Palliano," one of the short stories in the "Chroniques italienne," is based on a murder case and the judgment in 16th century Italy. Through the murder, judicial decisions, and changes in the judgment, we can read the changing power relations among the Pope, nobility in Italy and Spain. The 16th century is depicted as a turning point in the history of Italy up to the 19th century. An article on this work is forthcoming in H.B. Revue internationale des etudes stendhaliennes, an international research journal, to be published in 2023.						
3. 本研究課題に関する発表						
発表者氏名 (著者・講演者)	発表課題名 (著書名・演題)	発表学術誌名 (著書発行所・講演学会)	学術誌発行年月 (著書発行年月・講演年月)			